

### 機関投資家による「知財戦略」評価とエンゲージメント

中山 伊織 CMA  
渡辺 勇仁 CMA

#### 目 次

- 1. はじめに
- 2. 機関投資家における「知財戦略」評価の意義
- 3. 「知財戦略」評価の視点と望ましいコミュニケーション
- 4. 今後の展望

環境や人材がそうであったように、知財についても企業価値評価や投資判断に組み込まれていく流れを想定するが、それは総合的に適切な企業価値評価を行うという機関投資家としての重要な役割である。そこで、機関投資家にとっての「知財戦略」評価の意義を整理した上で、評価の視点と望ましいエンゲージメントについて、筆者の実践事例を踏まえつつ整理・考察した。

#### 1. はじめに

企業価値を構成する要素として影響度が高まる非財務情報の中にあつて、特許情報を中心とする知的財産（以下、知財）の重要性が増しており、企業の本源的価値をとらえようとする機関投資家

にとって、企業の「知財戦略」を適切に評価することが必要になってきた。こうした構図の背景を確認した上で、機関投資家における「知財戦略」評価の視点、企業と機関投資家の望ましいコミュニケーション、今後の「知財戦略」評価の展望について筆者の見解を示す。



#### 中山 伊織（なかやま いおり）

大和アセットマネジメント アクティブ運用第二部 シニア・ファンドマネージャー。2002年4月太陽誘電入社 先端技術開発部、2005年りそな信託銀行（現りそなアセットマネジメント）入社 産業エレキ、電子材料、印刷アナリスト担当、2008年よりファンドマネージャー。2017年より現在の大和アセットマネジメントにてエンゲージメントファンド担当。エンゲージメントチームのチームリーダー、知財ガバナンス研究会アドバイザー、知財無形資産経営者フォーラム会員。



#### 渡辺 勇仁（わたなべ ゆうじ）

大和アセットマネジメント アクティブ運用第二部 チーフ・アナリスト（素材セクター担当）。銀行で融資・投信投資顧問会社・アセットマネジメント、証券会社でアナリスト、事業会社でコーポレートベンチャーキャピタル担当を経て、2006年より現在の大和アセットマネジメントにてアナリスト。一般社団法人日本IR協議会 IR優良企業賞専門委員。日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会（化学・繊維）委員。